令和元年度第１回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日　　時	令和元年10月30日（水）　13時00分～15時00分
開催場所	市庁舎５階　関係機関執務室
出 席 者	内海委員、川名委員、佐伯委員、坂田委員、瀧澤委員、竹谷委員、田髙委員、田中委員、中野委員、名和田委員、西尾委員、畑尻委員、濱委員、福松委員、山田委員（15名）
欠 席 者	青木委員、赤羽委員、生田委員、井上委員、米岡委員（５名）
開催形態	公開（傍聴者なし）
議　　題	議事【議事１】横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会分科会３の実施結果について 【議事２】第４期横浜市地域福祉保健計画策定時にいただいた御意見について 【議事３】第４期横浜市地域福祉保健計画推進に向けた取組について 報告【報告１】第４期横浜市地域福祉保健計画　評価項目の現状値及び市計画冊子の修正について 【報告２】令和元年度　区地域福祉保健計画の推進状況について 【報告３】横浜市地域協議会の実施結果について 【報告４】横浜市社協長期ビジョン中期計画について 【報告５】よこはま地域福祉フォーラムについて
議　　事	**開会** **（名和田委員長）**今回は議事３がメインの議事となる予定。よろしくお願いします。 **議事** **【議事１】横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会分科会３の実施結果について** **（事務局）**資料１について説明 **（名和田委員長）**分科会３というのは成年後見制度についての分科会だが、何か御質問、御意見等あるか。 **（一同）**なし **（名和田委員長）**今後、具体化していくことが重要だということ。私も、本日いただいた資料に、成年後見制度はなかなか自分事として考えられないという記述があり、自分もこの年になってもまだそうだと思っている。私はたまたま妹が弁護士で成年後見のことを20年来やっているが、本計画で身近になって、私自身も今後は考えていかなければいけないと思っているところ。皆様方も、それぞれの地域での取組について、よろしくお願いしたい。 **【議事２】第４期横浜市地域福祉保健計画策定時にいただいた御意見について** **（事務局）**資料２について説明 **（名和田委員長）**我々も随分議論して確定した計画を、どういうところに説明に行ったかということと、またそこでいろいろと御意見をいただいているので、その概略について御紹介いただいた。何か御質問、御意見等あるか。 **（一同）**なし **（名和田委員長）**決まった後でいただいた御意見ではあるが、やはり身の引き締まる思い

がする。主な御意見の中の、「団体の中だけでなく地域ともっと関わっていく必要があると感じた」というのは大変心強く感じた。また、「もっとやさしい日本語を使って」という御意見に関しては、文章上、ある程度難しい文言を使わなければいけない場合でも不必要な難しい言葉を使ったり、言い回しを使うことはやはり避けるべきだし、順序立ててものを説明することはやっていかなければならない。

次の議事３が、本日皆様方から御意見をいただきたいところ。第４期横浜市地域福祉保健計画推進に向けた取組について、まず事務局から御説明いただきたい。

【議事３】第４期横浜市地域福祉保健計画推進に向けた取組について

（事務局）資料３－１～３－３について説明

（名和田委員長）第４期の計画が定まり、今、推進している局面で、その推進の一つの重要な場面として、地域づくりに関して、生活困窮者の問題と成年後見制度の問題を取り上げていただいた。これは地域の中のごく一部の問題では決してなく、皆が関わる問題で、地域全体として取り組まなければいけない課題だと思う。そういうことについて、実際、皆様方がそれぞれの持ち場でどのように実践しておられるか、あるいは考えておられるか、気づいておられるか、課題を感じておられるか、そういうことについて率直に御意見をいただいて、今後の市計画の推進に生かしたい。事前送付資料にある「当日御意見をいただきたいこと」について、報告を受けて、そういえばうちの地域でこういう取組を自分でやってみたけれどもこう感じたとか、そういったことを御発言いただければ大変ありがたく思う。ぜひそれぞれの委員に率直な御発言をいただきたい。

（田中委員）生活困窮者自立支援の取組の報告を受けて関心を持ったのは、栄区のアウトリーチパートナー研修。本日いただいた業務推進指針のコラムにも載っているのだが、このコラム以外にさらに補足があればお願いしたい。またアウトリーチパートナー研修というのは今後、各区でも取り組んでいく方向なのかをお尋ねしたい。

（事務局）栄区では、地域福祉保健計画の中で、誰もが地域の中で安心して生活ができるよう、見守り、寄り添う人をアウトリーチパートナーと位置づけて、支援者を増やす取組を実践していた。その中で、生活困窮者自立支援制度は27年度に始まったが、生活にお困りの方が自ら区役所に来られることがなかなかないということで、区の生活支援課がアウトリーチパートナーという位置づけで30年度、６カ所ある地域ケアプラザで研修等を行わせていただいた。今年度も栄区では引き続きアウトリーチパートナーの取組は進めているが、今後、我々もこの取組を参考にしながら、アウトリーチパートナーという形ではないかもしれないが、同じような支援をしていただける方を増やして全区に広げていきたいと思っている。

（田中委員）様々な課題を抱えている人に早期に気づくための工夫という設問の関係で、私はまだ地元の老人会に参加して２年目だが、友愛チームで年１回、友愛カードで全会員に困り事を聞くという取組を行っているので紹介したい。２年目の今年は中身を少し変えて、項目ごとに表の左側に頼みたい方、右側にお手伝いできる方というチェックボックスを作り、会員同士の困り事をお互いに助け合っていくという思いを広げていくという意味で、頼みたいこととお手伝いできることをそれぞれ書いてもらうと

いう方式にした。また、いわゆるオレオレ詐欺が問題になっているので、老人会の中でもどんな状況かつかもうと、項目として入れた。このカードは、老人会で月１回ふれあいサロンをやっているので、その場で説明しながら書いていただいた。さらに、老人会は７つの班があるので、その班ごとに班長が全員に配って聞きとり、結果を集計した。集計結果は、69名の会員のうち58名まで回収でき、１割の方が支援を希望し、お手伝いできる方が約３割いることが分かり、具体的に今やれるところから始めている。頼みたいこととお手伝いできることの項目の中で変わった項目としては、「制度説明」というのがあるのだが、入院のときに医療費の心配があったこともあり、入院医療費の制度について会として勉強しようと、ふれあいサロンの中でミニ学習なども行った。とりあえず会員の困り事をつかんでいく、そして同時に、元気なうちはお手伝いをしていくという雰囲気を少しずつ広げていくと。今は会員が中心だが、地域に住んでいる未加入の高齢者にも今後は目が行くようにしたいと考えている。

（佐伯委員）この友愛カードは、実際にマッチングされたのか。

（田中委員）枝切りやごみ出しなどの項目については、既に手伝いが始まっている。病院送迎という声もあり、同じ町内会にボランティアグループもあるので、来年１月から送迎ボランティアもやろうと準備している。

（名和田委員長）先ほどの御説明だと、制度説明というのもマッチングが成立して学習会をやったということは、淡々とおっしゃったが、素晴らしい活動だと思う。

（内海委員）策定の時にもお話ししたが、生活困窮者自立支援方策で、実際に相談に来る方は、区役所の窓口というのは一番ハードルが高いようだ。もう少しハードルが低いところでは地域ケアプラザがあるが、そこもそれなりにハードルが高い。私が知っている港北区の小机や、泉区の和泉中央にある地域のサロンでは、生活支援課の職員が毎月の運営委員会に参加していろいろ意見交換しているが、区役所や地域ケアプラザ等の窓口となると非常にハードルが高い。また、何を相談したらいいのかが分からないので、地域の居場所の中で、だんだんお互いに親しくなってくると、実はこういうことだという話が出て、多様な相談ができるような取組ができている。港北区の小机でやっている例は、地域のサロンに相談に来ると、答えられないものは地域ケアプラザにつなぐことを実際やっていて、地域ケアプラザも密に地域の居場所（サロン）とリンクしており、必要に応じて区までその相談内容についての話が行くという仕組みができている。そういうことをかなりきめ細かくやっていないとなかなか相談は挙がって来ない、ということがあると思う。

　また、資料の中に困り事の例があったが、定職につけないとか、親の介護のために仕事をやめて、介護をやっている間に10年ぐらいたってしまい、今度は仕事につけないだけでなく、人とのコミュニケーションがうまくとれないことで、就職すること自体難しい。就職をするための前段のプログラムもかなり重要ではないかと思う。ある区で、私が調査でお付き合いしたところの経験だと、全体の相談の４分の１ぐらいは就労につながるが、それ以外はなかなか就労につながらないという話があった。それでは、その第１ステップをどのようにしたらいいのかという議論をして、一つは、社会参加促進事業というか、地域あるいはその区にある福祉施設や地域ケアプラザ、地区センター等公的な場にボランティアで一緒に社会参加し、参加する中でありがとう

	と感謝されることが、困りごとを抱えている人を前向きにしていくステップであることが判明。人によって好き嫌いや関心・興味のあることが違うため、相談の際に、子ども時代にどういうことが好きだったかという話もうまく聞くような仕組みができると良い。社会参加として例えば子どもが大好きな方だったら保育園の下駄箱掃除などをすることで、子どもが遊ぶ姿にも接することができるため、それをきっかけに、働いてみようかという気持ちになると思う。人とのコミュニケーションをうまく図れるようになるための幅広のプログラムが、私は非常に大事だと思っている。私が関わった区ではそういう形で事業としてスタートしているが、そのようなことが、自立支援としては重要な点ではないか。いきなり仕事の話にはなかなかいかない。これは８０５０問題にかなり近い。この困り事に書いてあることのほとんどは８０５０問題に近いので、区役所に相談に来る方も、おばあちゃんが来て、実は息子がいて大変だと。自分がいなくなると思うと心配でというので区役所に相談に来る方もおられるようだ。そういう意味では、仕事をするところまでどのようにしてたどり着けるかというのは、いろいろなルートや考え方があると思うが、そのようなことを展開していくというのも非常に大事なことだと感じている。 **（名和田委員長）**地域の幅広い関係の中でニーズを見出さないとだめだという御意見をいただいた。今お話しいただいた生活困窮ではなく成年後見のほうで、資料２のアンケート結果の５ページで、Ｑ４の誰に相談しますかというときに区役所が一番多くて、地域ケアプラザも３割近くてすごいなと思ったのだが、実はここに来る前のところで地域に相談できるような環境がないと、かなり重症になってから上がってくるということになるのだろう。更に発言を求めたいと思うが、山田委員、どうか。 **（山田委員）**西区では、生活困窮者の取組も含めて今、相談に関わる事業所や相談員がネットワークを組んでいて、会議の名称はセンター支援会議というのだが、障害分野だと基幹相談支援センターや生活支援センターの西区の施設長など、子ども分野では地域子育て支援拠点の相談員や高齢分野では各地域ケアプラザの生活支援のコーディネーターなどが入っている。区役所は福祉保健課と生活困窮者自立支援の担当者、区社協も入っているが、どこの切り口でも相談に乗れるメンバーがネットワークを組んでおり、今、３年目になっている。ちょうど今週末に区民まつりがあるのだが、そこでブースを出して、どんな相談でも来てくださいというのぼりを立てて、各分野の相談員をそろえることもやったりする。その他アウトリーチもしていて、県営住宅の集会所に出向いて健康体操をしながら困り事を聞くことも今までやっているが、チラシをポスティングしてもそれを目がけて相談に来られる方は残念ながらいなかったという状態で、もう少し周知を続けながら様子を見ようと思っている。その会議を３年続けて最も良かったことは、私たち相談員レベルでのインフォーマルなやりとりがすぐできるようになったことで、私のところに来た相談で、例えばこれは障害の分野が絡むと思ったら、基幹相談支援センターの相談員にすぐ電話して、こういう場合はどうしようと言って、一緒に解決に動けることができるようになったのが何よりの強みなので、もう少し取組を続けていくことで、いざというときにはすぐにみんなが動けることや、いろいろな視点で困りごとをキャッチできる人がいるということを西区は大事にしていこうと思っている。目がけて来なくても、それぞれの事業所で受けた相

	談が他分野に絡む場合は、既にそれが皆で解決するための糸口になっているので、そこに生活困窮が入っているというのは非常に大きいと、実感している。 **（畑尻委員）**非常に参考になるお話をたくさん伺っているが、現実問題としてプライバシーの問題、個人情報の絡みがあるので、本音を言うと実際はやりにくい。案外、親しいというか近隣に住んでいるひと同士のほうが相談するのを嫌がる傾向がある。特にマンションなどはそうだ。そのときに第３者を紹介してあげるとか、いろいろなイベント等に積極的に参加するように誘いをかける。イベントをして、そこに参加して、お昼ご飯を食べながらいろいろ話をしていると、本音や、日ごろ誰かに聞いてほしいという話が出てくるので、それを聞いた人はすかさず、誰にでも言うのではなく、社会福祉協議会や、町内会長や役員など限定した人にはなし、手助けをしている。そういうことが大事ではないかと思う。私は連合町内会の会長や社会福祉協議会の会長もやっているので、いろいろな分野で幅広く聞くのだが、根底にあるのはやはり個人情報、プライバシーという一つの大きな壁がある。それをどうしたら打破できるかというのが一番の悩みだ。もし経験上、よい方法があれば教えていただきたい。 **（名和田委員長）**今おっしゃった実践は素晴らしい。イベントの中で率直に話せる雰囲気をつくって、プライバシーを守りながら関係機関につなぐということだった。他にいかがか。 **（竹谷委員）**今、イベントという話があったが、こういった活動で一番やりやすくて情報が集めやすいのは防災訓練だと思う。これはある意味、否応なしにやってもひんしゅくを買うこともないし、防災訓練に参加できない方にも事情を聞くという格好でアウトリーチも出来るし、地域ごとのつながりの濃さが分かることもあると思う。また、一人も見逃さないという意味で一番身近に接しているのは、自治会の構成でいくと班長だ。大体、10～20世帯に１人の割合で配置されているが、高齢化に伴い仕事を減らそうという動きがあり、我々の活動とは逆の方向に動いている。これを防ぐためには、班長に見守り活動等を余りたくさん頼まないで、班長はセンサーの役割をしてもらうことが重要ではないか。何か異常に気がついたら誰かにシフトすればそこから発展して情報がまとまっていくという視点も考えなければいけないのではないかと、今トライをしている。これは自治会の規模や所帯数の規模によってやり方を変えなければならず、ある規模のところでは、例えば自治会長が全部担当すれば問題ないのだが、福祉担当部長を置いているような自治会なら福祉担当部長ないし副部長の方を中心にして組織をつくれる。しかし100世帯にいかない小さいところではそうした組織も十分つくられていない。そういったところは誰がどうやったらいいか考えないといけないということで、私が担当している地区社協としては情報を集める仕組みを工夫しなければいけないと、取り組んでいる。具体的に１つ例を挙げれば、班長が気づいたことを民生委員に届くような工夫をしている。民生委員は大体300世帯に１人配置されているので、300世帯以下の自治会は民生委員がいない場合もある。特に100世帯ぐらいになると、近隣の民生委員を兼務している場合は班長の面識もほとんどないので、せっかくの情報も伝わらないことがある。せっかくの情報が埋もれないように、地域ケアプラザや民生委員といった方にどうやったら情報をつなげられるかということを今、検討している。

	（名和田委員長）貴重なお話をありがとうございます。今、畑尻委員や竹谷委員からはそれぞれ地域の立場からいろいろな御意見をいただいているが、もちろん専門機関の方でもいいので、地域で工夫していることなどがあれば更に御発言を求めたい。 **（坂田委員）**市域ではいろいろやっているが地域でというと恥ずかしいけれども、イベントをしてもなかなか人が集まらないので、その集まる方法を何とかしないといけないという話が出た。例えば子どものマーチングバンド等をやれば多分、親が来るから集まるだろうという話にはなっているが、時間がないから今年は難しいという話になった。やはり地域によってそれぞれ違うのかなと思った。 **（名和田委員長）**都筑区は区計画で関わっているので多少、地域柄は存じている。では、更に御意見をいただきたい。 **（中野委員）**今、坂田委員がおっしゃったように、イベントを仕掛けてもなかなか出てきていただけない。どうしてかというと多分、自分が困っているという認識を持ちたくない、あるいは問題を考えたくない、考えられない、それから、人に理路整然と話を伝えるポテンシャルが下がっている、能力がないわけではないのだが気力が落ちている。生活困窮者が抱える課題や困り事は１つではなく、幾つもがその方に降りかかっているので、自分は何がどう困っているのかを整理したり、人に告げたりする気力、体力が落ちているようにお見受けする。だから、イベントをやるので出てきてねと言っても、着がえて、靴を履いて、外に出るということがすごくハードルが高く勇気が要る。ケアマネジャーをしていたときは、こちらから出向いてアセスメントをする中で、本人のＡＤＬもアセスメントするが、生活環境をアセスメントしたときにたくさんのことが見つかる。50代の息子さんが実は開かずの間にいてお会いすることもできないということが、何回か毎月訪問しているうちに分かってくるので、もしかしたら要介護に至らない要支援のお宅でも、地域ケアプラザからケアマネジャーが来るときに、そういった状況を発見する機会はたくさんあると思う。それをフィードバックして、本人の解決しようと思うスピードと、こちらのスピードにちょっとギャップがあるので、押しつけがましくならないような形で時間をかけて気持ちをほぐしたり、やはり伴走支援が必要だと思う。ここに行ったらいいとか、こんな名簿があるとか、相談機関はこうだと書類を渡しても、このごろ自分も年をとってきて分かったのだが、字を読むのがしんどくなってきたりうっとうしくなってきたりする。だから、じゃあ一緒に区役所に行ってみようとか、制度説明の方がボランティアでと、そういう形で伴走する人がいて、一緒にその人のスピードに合わせながら自立への道筋をたどっていく。その伴走している人の後方にはちゃんと支援者がいるという仕組みにしていかないと、相談してくださいとか、困っているんですよねと決めつけられると、困っていないと言うので、センシティブにお付き合いを重ねていくほうが、時間はかかるが実行件数は多くなるのではないかと思う。 また、今の話とは少し離れるが、福祉保健の取組として、「つながりのまちづくり未来フォーラム2020」というのを開催するので、その紹介をさせていただければと思う。いつも満員になってしまうので、ぜひ早めに申し込みいただければと思う。身近な解決策を模索している方たちからの実践報告があって、おもしろい内容となっていると思う。１番目の事例の、ちょこっと子育てレスキュー隊は都筑区の取組。旭区の左近

山団地では、大学生が団地に住んで街が変わるか。という壮大な実験を横浜国大の学生がなさった。３番目の事例は、「なくてはならない、ボランティア・プロボノの力」。本業をお持ちの方の技術・能力をボランティアとして発揮していただくという事例の御報告。４番目が、「協働ネクストステージ、未来に向けて」。どうやったらつながれるのだろうという話し合い、そしてトークがある。よろしければぜひお申し込みいただきたい。おもしろいと思うし、ずばり福祉というのではなくてその周辺という感じなのだが、こうやってじわじわやっていくことでまちづくり、地域づくりに最後はお役に立っていくのではないかと思って情報提供させていただいた。

（名和田委員長）ありがとうございました。もう少し時間があるので、是非この議題に関連する御発言をお願いする。

（中野委員）もう一つ、言い忘れたことがあったので発言したい。親の介護の話が出ているが、ケアマネジャーで支援しているときによく、親の介護のために会社を辞めますという人がいたが、絶対に辞めないでほしい。将来の自身の年金が仕事を続けることに大きく関わってくるので、辞めてはいけない。愛は身内で、人手は他人で。何としてでも他人で支えるので、御家族は愛と指示。その家庭の方向性だけ、こういう方向でいきたいという司令塔にさえなっていただければ、具体的な手立ては他人でできるので、親の介護では、仕事を辞めないでというのを事あるごとに言っていただきたいと思う。

（福松委員）日ごろは健康づくりなので、ウォーキングとか体操教室とかになってしまうのだが、私の町内の町内会館に地域ケアプラザの方が月１回相談窓口で来てくださっている。そういう相談窓口があるということは、町内のチラシや掲示板、回覧板などが回ってはいるが、まだ窓口で相談される方が少ない、ということだと思う。だから、窓口では、もっといろいろなことを、何でも相談できるということを、これからお知らせしていきたいと思っている。毎月地域ケアプラザの方が来てくださっていて、時々ミニ講座も開いてくださるのだが、今のところ相談が少ないとおっしゃっていた。元民生委員の方の話だが、区役所が近くて直接相談に行く方が多いので、民生委員に相談する方は少ないそうだ。それはそれで、それぞれのところに相談されるのはよろしいが、せっかく窓口もあるので、近場の町内会館にそういう窓口があるということをもっと町内の方々に広めていきたいと思っている。

（名和田委員長）どのくらいの規模の町内会なのか。何世帯ぐらい。

（福松委員）連合町内会には町内会が４つ入っている。

（名和田委員長）結構大きい町内会で、自治会が交流拠点みたいになっていると想像するが、どうか。

（福松委員）そのとおり。

（名和田委員長）だから地域ケアプラザが来てくれている、ということだと思う。

（福松委員）地域ケアプラザは山坂を越えていかなければいけないので私の町内会からは遠い。私は花しょうぶという、４地区合同で65歳以上の方の茶話会みたいな、お茶を飲みながら体操したり、講座があったり演奏を聞いたり、そういうのを開いているのだが、それが月１回で、どうしても地区によっては山坂越えていくという形になる。私の住んでいる地区は山二つ越えていかなければ、最寄りの地域ケアプラザに行けな

いので、行く人がほとんどいない。中にはバスを乗りかえて来てくださる方もいらっしゃるが、交通の便が大変なところなので月１回、出張で町内会館に来てくださっている。

（西尾委員）御報告の感想になってしまうかもしれないが、エンディングノートがあったら非常によかったなと思うことがある。自分の親のことを考えたり、自分のことを考えたりすることも実感としてあって、それで御報告を伺っていたが、生活困窮者の相談の経路が、本人と、庁内各課、庁内関係機関とあって、庁内は公助とのつながり、庁外は共助とのつながりがあると、相談件数が増えてくるだろうと思っている。やはり本人からも、自分は困っている、ここが問題なんだと伝える力が高まっていくことが必要だと。そう思って伺っていると、試みとして、緑区でファイナンシャルノートを作っておられて、多分、家計簿のもう少し自己アセスメント的なものになっているのではないかと思う。自分で問題とか生活状態、困難性に気づいていくようなツールというか、そういうものを今、いろいろなところで聞いたりもしている。例えば災害時の自助力点検ノートや、母子手帳もそうかと思うが、最近よく聞くのは、お父さんの産後うつや育児うつがあったりするそうなので、例えば父子手帳とか親子手帳みたいなものが助けになるのではないかと思ったりする。ただ、それを渡すだけではだめなので、御報告にあったように地域でワークショップをやったり、一緒に作ったりする中で気づけることが多いのではないかと思う。こういうものが地域福祉の中で少しずつ生まれてきているので、困っているから助けてと言えるようにサポートする自助力強化ノートみたいなものを考えていくことも必要ではないかと感じた。

（田髙委員）私は、資料３－３のアンケート結果で、先ほど委員長からも御指摘があった２－５ページのＱ４についてだが、財産の管理や契約等について、成年後見制度につながるための一つの相談先ということを問いたかったのだろうと推測するのだが、若干選択肢に偏りがあるのではないかと感じた。ここに挙がっているものにつながることができるくらいならもうつながっていると思う。したがって、ここで市民やさまざまな機関や事業所が、まさしく受けとめたり気づいたりすることで言えば、このアンケートでいう「その他」をいかに広げることができるかということが非常に重要で、今回のアンケートのこの選択肢からもし「その他」を自由記述で書こうと思ったら、もう挙がってきようがなかったのではないかと思う。なので、今後の取組のところで、市民や関係機関が受けとめて気づくことができる力量を高めていこうとするならば、この「その他」の選択肢をそれに応じた形で設計する、それはアンケートの設計だけではなくて、取組として進めるということが必要ではないかと思った。これは、回答した人が将来、自分がその当事者になったときに、結果として同じ選択をすることになるだろうから、いつまでたっても広がらないということで、同じことが例えば２－９のＱ９、今度は困り事の種類が若干広がると言えばいいだろうか、将来の心配事や困っていることということで、自分自身が相談できる相手は誰かということになると、選択肢が肉親に偏る。今後、配偶者や子どもがいない人たちが増えるので、例えばキの近隣の人であるとか、あるいはその他のところに多様な主体が挙がってくるようなアンケートの設計並びに取組の推進というところが、次の目指す取組にも合致するのではないかと思っている。

	（名和田委員長）ありがとうございました。アンケートも実践が進んで問題構造が明らかになればまた進化していかなければならないものだと思うので、事務局においても、今の田髙委員のご指摘を参考にしながら、今後アンケートの精度を高めるべく改善していっていただきたいと思う。 （内海委員）今年からある地区でまちの保健室というか、まちの相談室みたいなことを始めたところから聞いた話だが、エンディングノートは、区版はかなり厚くて、自分だけでは最後までなかなか行き着かない。だから、相談しながら書くことをその相談室で始めたようだ。そうすると、１回目はだめだったけれども、何回も通ううちに自分の困っていることや成年後見のこともどのようにしたらいいかという話ができるので、エンディングノートをとにかくつくろうということをきっかけとして、分からないことがあると、そこから対話ができていくこともある。そういうことで、まちの保健室みたいな取組は結構有効かなと感じた。エンディングノートも各区のものを見たが、区ごとに相当違いがあって、区の特性が出ている感じがする。なかなか自分だけで書くのは難しいので、伴走支援の仕組みがあると有効にうまくすくい上げることができるのではないかと思う。 （名和田委員長）ありがとうございました。この議題は思いのほか成功をおさめたというか、もっと皆さんの発言を聞きたい気がするのだが、時間が限られてしまっていて本当に残念に思う。さすがにこのメンバーだといろいろな御意見をいただけるなと思っているところだ。もし、こういうこともあるということがあれば、事後に事務局にお伝えいただきたいと思う。それから、このテーマはもちろんここの話し合いだけで終わるだけではなくて、今、政府のほうも地域共生社会というスローガンを出して大変よいことだと思うが、横浜市の場合はそれを地域福祉保健計画で推進してきて、今後、市計画とともに区計画、地区別計画が策定されていくので、それぞれ皆様方、御自分の持ち場で、それに向けて御協力いただきたいと思う。私も瀬谷区と都筑区とで関わっていて、頑張っていくのでよろしくお願いする。本当に残念だが、時間の関係で、この議題はこれで閉じさせていただきたいと思う。 （事務局）報告に移る前に、２つ、市計画推進の取組の紹介をさせていただきたい。 リーフレット「自分も元気！地域も元気！」と資料３-４（差替え）について説明 （名和田委員長）皆様方それぞれ地域で実践しておられて御意見をいただいたのだが、そういうことを事務局、市としても支援しているというふうに受け止めればよろしいかと思う。 報告 **【報告１】第４期横浜市地域福祉保健計画　評価項目の現状値及び市計画冊子の修正について** **【報告２】令和元年度　区地域福祉保健計画の推進状況について** （事務局）資料４～６について説明 （名和田委員長）何か御質問等あるか。 （一同）なし

	（名和田委員長）評価はこれからするということで現状値を入れているだけで、あと、区の方はどうなっているかというのはこれを見れば一目瞭然、どの区についてもよく分かる資料なので、ぜひ御活用いただきたいと思う。 **【報告３】横浜市地域協議会の実施結果について** **【報告４】横浜市社協長期ビジョン中期計画について** **【報告５】よこはま地域福祉フォーラムについて** （事務局）資料７、８、別紙について説明 （名和田委員長）これで全て報告していただいたが、何か御質問、御意見等あればお願いする。最初にあった地域協議会というのは、本委員会の委員の半分ぐらいの皆さまには出席いただいているが、全体で共有したいということで報告していただいた。傍聴者が結構いて、割と活気があって良かったと思っている。御質問等はないか。ほかに、この議題を離れて何か御発言があればお願いしたい。 （中野委員）資料８の御報告の裏面で、５－３、災害に備えた職員の配置と書いてあるのだが、現段階というか今回の台風15号、19号、21号などで気づいた点や、もっとこうしようということ、何か実践されたことなどがあれば、あわせて教えていただきたい。 （本田事務局長）最後の挨拶とあわせて御説明したいと思う。 （名和田委員長）台風15号のときは携帯やインターネットがつながらないとか、東北でプレイパークができなくなったなどいろいろあった。 それでは、本日の議事はこれで終了するので、進行を事務局にお返しする。 （事務局）本日は熱心に御議論いただき、まことにありがとうございました。 それでは、最後に横浜市社会福祉協議会事務局長の本田より御挨拶いたします。 （本田事務局長）本日は長時間にわたり、さまざまな事項について御審議、御意見をいただき本当にありがとうございました。 第４期の地域福祉保健計画策定・推進委員会には、権利擁護関係の分科会３も設置され、この計画の領域の広がり、また重要性も、ますます高まっているものと考えている。 先ほど中野委員からお話があったとおり、連日報道されているが、台風の風水害により、東日本を中心とした広範囲の地域で多くの甚大な災害が発生している。横浜市内でも金沢区で、護岸が崩れ、中小企業を中心に事業所が浸水して、１階部分は相当破壊されているようなところも見受けられている。一般の住戸でも、家屋の損壊や浸水が発生している状況だ。市社協も昨年、西日本の豪雨災害に伴う災害ボランティアセンターの運営業務に関わる支援ということで、広島県の三原市に20人ほど職員を派遣した。そこで、中野委員からお話もあったが、実は市民セクターよこはまの吉原さんとも意見交換をさせていただいているが、まだまだやれていないことがたくさんあって課題もあり、市社協、区社協と、地域ケアプラザのうち市社協が指定管理をしている17カ所と、同じく指定管理をしている上大岡のウィリング横浜について、災害の備蓄状況を調べ、横浜でも災害が起きたときにどういう態勢を~~と~~取るのか、検討を始めているところである。また、今年は千葉県の南房総市に職員を派遣している。南房総市には市社協の会長、常務理事、総務部長も実際に行き、南房総市の会長とお話し

	させていただくようなこともしている。また、今週から県内の相模原市からも応援要請があり、災害ボランティアセンターの応援のため職員派遣を開始したところである。県内も箱根町や相模原市、川崎市に被害があり、政令市である相模原市、川崎市も災害ボランティアセンターを立ち上げている。横浜市も災害ボランティアセンターを設置しなければいけない状況もあると思っていて、こうした機会に職員の人材育成も兼ねて積極的に職員を出していきたいと思っている。 　この地域福祉保健計画は、14ページにイメージ図があるが、本当に自助・共助・公助、住民主体、協働という考え方は、まちづくりや福祉、防災などの分野にも通じるものだと思っており、まさに地域福祉保健計画は分野横断的に進める取組ということで、さまざまな困り事に対しやっていけるのではないかと思っている。先ほど、防災の話もあったが、今後も委員の皆様方の御意見をいただき、計画の推進に私ども社協としてもつなげていきたいと考えている。 **（事務局）**次回の開催については改めて日程調整させていただくが、現時点では２月ごろに計画の検討会の開催を予定している。日程調整に関して、また御連絡をさせていただくのでよろしくお願いしたい。 　以上をもって本日の会議を閉会とさせていただく。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。 **閉会**
資　　料	○令和元年度第１回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会　次第 ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会　委員名簿・事務局名簿　※ ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会運営要綱 ○令和元年度　第１回　分科会３の振り返りについて　（資料１） ○第４期横浜市地域福祉保健計画策定報告時にいただいた御意見について　（資料２） ○令和元年度　第４期横浜市地域福祉保健計画　主な取組スケジュール　（資料３－１） ○生活困窮者自立支援方策の推進の取組について　（資料３－２） ○横浜市生活困窮者自立支援制度　業務推進指針　※ ○生活困窮者支援リーフレット　※ ○柱２－３「身近な地域における権利擁護の推進」の取組報告　（資料３－３、別紙） ○「自分も元気！地域も元気！」リーフレット　※ ○第４期地域福祉保健計画周知のための動画作成について　（資料３－４） ○第４期市計画評価項目の現状値一覧　（資料４） ○第４期市計画冊子資料編の修正について　（資料５） ○令和元年度　区地域福祉保健計画　策定・推進スケジュール　（資料６） ○横浜市地域協議会の実施結果について　（資料７） ○長期ビジョン2025中期計画（令和元～令和５年度）について　（資料８、別紙※） ○よこはま地域福祉フォーラムの開催について　※ （※当日配付資料）